

保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人 南山城学園
施設名	るりの詩保育園
一報告者（役職）	谷 翔子（主任）
住所・連絡先	〒618-0013 大阪府三島郡島本町江川2丁目13番
	☎075-963-3110
	E-mail general@minamiyamashiro.com

○タイトル（保育計画）

子ども主体の保育 ～一人ひとりを大切にする保育の実践より～

○主な助成備品

スペースパーテーション（木製絵本ラック・木製サイドオープンドア L70）

1. 保育計画策定の目的

るりの詩保育園では、子どもの気持ちをまんなかに据え、「子どもたちの自主性を尊び、主体性を育む保育」を目指しています。自ら考え挑戦していく主体性を育むために、決められたプログラムを、決められた時間内にみんなで行う一斉保育ではなく、一人ひとりの心や発達に丁寧によりそう保育を行っています。

また、「子ども主体の保育」とは、「環境を通じた保育」ともいえます。保育者が子どもに指導や命令をするのではなく、環境自体が子どもに意味を提供しており、子どもは環境との相互作用の中で自分の行動を調節したりして発達していきます。

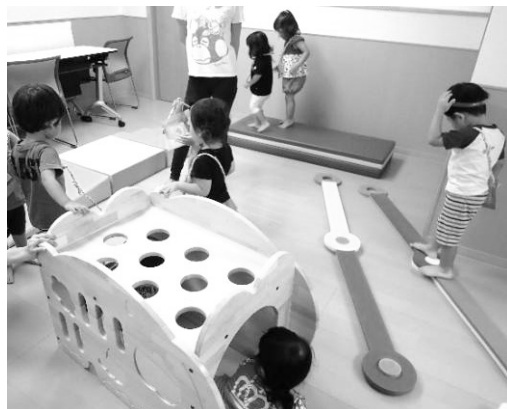
0歳児～2歳児の19名がワンフロアの保育室で過ごしていますが、保育室をクラス別で分けるのではなく、「ほっこりエリア」「絵本エリア」「ままごとエリア」「運動遊びエリア」「ランチルーム」等、目的別のエリアで分けることにより、子どもたち一人ひとりが、自由に自発的に遊ぶことができる保育環境のさらなる充実を図るため、こちらの保育計画を策定しました。

2. 具体的な実施内容

自由に自発的に遊ぶことができる保育環境の形成のため、まずは、スペースパーテーション木製絵本ラック、スペースパーテーション木製サイドオープンドア L70 を活用し、保育室を「生活スペース」と「遊びスペース」の2つのエリアに大きく分けました。

さらに、「遊びスペース」では、おままごとキッチンシリーズで「ままごとエリア」を作り、「ほっこりエリア」には、くぐるんだぞう、スライドパネルを配置しました。また、「運動遊びエリア」を新たに設定し、安全マルチ平均台セット、ソフカル防災マット、3ステップハードル、パオパオバルーンレギュラーを活用して、いつでも思い切り身体を動かして遊ぶことができる環境を構成しました。(写真1)

<写真1>



「ブロックエリア」では、マグブロック、レゴ、デュプロを保育室奥に配置し、子どもの発達や興味関心に即した遊びがすぐに展開できる工夫を図りました。

一方、このように物的環境を改善するだけでは、子どもの主体性を育むことや、保育の質の向上にはつながりません。物的環境と併せて、人的環境の見直しも実施しました。


図1の通り「保育環境チェックリスト」を作成し、玩具・空間構成などのチェック項目に基づき、今の環境が子どもたちにとって本当に最善であるかを、常に見直すように心がけました。また、当園の保育者だけでなく、他施設の保育者にも保育環境チェックリストを実施してもらうことで、多角的な視点で保育を見直すように留意しています。

<図1>

保育環境チェックリスト	
【るりの詩保育園】2021年 月 日()	
玩具	玩具の色・色彩が美しい。
	どこに何があるか子どもが見て分かり、遊びたい気持ちが高まる。
	玩具が大切に扱われている。
	子どもが自分で選び、すぐ手に取りやすいように工夫して配置する。
	「量」が適切。(多すぎたり、少ないことがない)
空間構成	他の遊びとの距離が近すぎない。
	同じ種類の玩具は同じエリアに置く。=「仲間集め」
	エリアを意識して区切る。
造形遊具 教材	道具・素材が豊富である。
	種類ごとに分けて、きれいに飾る。
	様々な素材が自由に取り出せる。
	季節の自然物や生き物がある。
保育	「見える化」遊び・生活の様子(保育の過程)を写真と文字で可視化する。
	ドキュメンテーションは保護者・子どもが見やすい位置に掲示している。
作品	一人ひとりの作品が大切に飾られている。
	作品が完成するまでの過程が、写真と文字で可視化されている。
子どもの姿	一人ひとりが遊びに夢中になれるか?
	自分なりに目的をもって遊べているか?
	遊びたくなる・遊びをつくりだせる環境か?
	安心して過ごす居場所があるか?

次に、図2の通り、保育者は子どもの姿を写真と文字を組み合わせで記録した「ドキュメンテーション」を随時作成しています。ドキュメンテーションを保育室に掲示することにより、保育者だけではなく子どもや保護者との間でも、環境を通して子どもたちはどのような資質・能力が育まれているのかという共通の成長の視点を持つことで、常に子どもの最善の利益の追求と保育の質の向上に努めています。

<図2>

はじめてのシール貼り			
日付	2021.10.14	記録者	竹田
対象園児			
今日の活動	お絵描き、シール貼り		
			
振り返り	<p>自由画を楽しんだあとは、初めてのシール貼りに挑戦した くん。</p> <p>初めは、何度も指にくっついて画用紙に貼るのも苦労。ところが、だんだんコツを掴んだようで、べったんべったん！すると、めくったシールが自分の腕にピョンと跳び、それを見て不思議そうに何かを考えたかと思うと…今度は、別のシールを自分の手のひらにべったん！シールが色んな所へくっつくことに気が付いた様子の くんです。それから、何度も何度も、めくってはまた自分の手に貼り…を繰り返し、楽しんでいました。</p> <p>(思考力の芽生え)(数量や図形、標識や文字への関心・感覚)</p>		

3. その成果と評価

保育室を目的ごとのエリアに分けたことで、子どもたちが好きな遊びを集中してじっくりと取り組む姿が、以前よりも多く見受けられるようになりました。

そして、気持ちの切り替えに時間がかかる子どもも、自分の好きな遊びをじっくり取り組み満足できたことによって、自分で気持ちを切り替えて次の活動にスムーズに移行できたり、遊びの区切りを自分で考える姿が見られるようになりました。

エリアごとの、遊びのルールも保育者が一方的に教えるのではなく、子どもたちと共に考えることで、2歳児は年下の子に教えてあげたり、子どもたち同士で伝え合う姿も見られます。

また、時間に追われることなく一人ひとりの生活リズムを保障できるため、子どもたちも自分の生活に見通しをもって考えて行動する姿が見られます。

保育者も子どもの行動の選択や決断は本人に任せて見守ることで、子どもの思いに丁寧によりそい、自主性を尊重するようになりました。

その成果として、どの子どもにも安心して過ごせる居場所があり、信頼できる保育者のそばで、好奇心・探求心・憧れの気持ち・自らやってみようとする意欲が育ち、自立して生活していくための基礎が少しずつ身についています。

4. 今後の課題と展望

これまでの成果をみると、園内での子どもたちの遊びや生活は充実してきました。しかし、園外での経験や地域交流の機会が減少しています。小規模保育事業所であることや、コロナ禍の状況も踏まえながら、今後は地域のより幅広い人々とかかわれるような機会を持ち、地域に開かれた園にすることが課題として挙げられます。

子どもたちの育ちには様々な人とかかわりと、遊びによる学びが重要であり、その遊びによる学びを保障していくために、まずは環境を見直すことが欠かせません。

子どもが興味・関心を持ったことを、自ら考え挑戦していく経験を大切に、子どもたちの自己充実を保障できるような環境構成や声かけを常に問うていく必要があります。

そして、今の子どもたちが生きる未来には、与えられた課題の正解を求める力よりも、自分で問いを立て、解決策を仲間と協力しながら考え、生み出す力が必要です。

今後は、自立して生活していくための基礎を培うために、子どもの主体性を尊重しながらも、地域交流や園外活動を通して、年齢の異なるさまざまな他者と協同する力も育めるように尽力していきたいと思えます。

以上